

論文の内容の要旨

論文題目 初詣の成立と展開 ―近代日本の都市における娯楽とナショナリズム―

氏名 平山 昇

本研究は、明治期の都市化のなかで庶民の娯楽行事として生まれた初詣が、大正期以降知識人へと波及し、〈上から〉の動員によらない個人・家庭単位の自発的な慣習として、娯楽とナショナリズムが絡みあうなかで、「国民」を包摂した正月行事へと変容していく過程を明らかにするものである。

まず、第一部では、明治期の都市化のなかで、近世以来の社寺参詣が〈鉄道＋郊外〉によって再編されることによって、初詣が成立する過程を論じた。

第一章では、明治期東京における初詣の成立過程を明らかにした。東京の南郊に位置する川崎大師は、いち早く鉄道のアクセスを得たために、恵方や縁日といった近世以来の基準にとらわれずに正月に参詣に訪れる人々で賑うようになり、これが「初詣」と称されるようになる。さらに、明治後期になると並行する鉄道同士の競争によって、初詣は娯楽性を高めながら賑わいを増していく。

第二章では、東京と大阪を比較しながら初詣と近世以来の恵方詣との関係を検討し、近代都市が最終的に恵方を衰退させ、初詣を定着させた要因を明らかにした。鉄道会社は恵方を集客のために積極的に活用したが、恵方は毎年方角が変わるため、毎年用いるわけにはいかない。そのため、鉄道による集客競争の激化のなかで恵方は乱用されて重要性を失っていくとともに、恵方に関係なく用いることができる「初詣」が盛んに活用されるよう

になっていった。

第二部では、天皇の代替りを契機として、庶民の娯楽として成立した初詣に知識人たちが参入しはじめることによって、初詣がナショナリズムと接合し始めることを論じた。

第三章は、明治天皇重態時の二重橋前平癒祈願とその直後に新聞投書欄で起こった明治神宮創建をめぐる論争を検討した。二重橋前平癒祈願では、土下座する老婆や土俗的な祈祷者といった下層庶民がかえって熱烈に天皇の平癒を祈願する様子が新聞で大々的に報じられ、知識人たちは表面上の〈形〉は様々でも天皇を思う〈感情美〉は皆同じであるとして感激した。天皇死去後まもなくして、明治神宮創建の可否をめぐる議論が新聞投書欄で起こったが、神宮推進派と反対派の意図せざる共同作業によって〈感情美〉が神社と独占的に結び付けられていく。平癒祈願において〈形は様々／心は一つ〉として見出された〈感情美〉は、かくして神社と独占的に結びつく〈形も心も一つ〉という中身へと変化していった。

第四章では、明治期に成立した初詣が庶民中心の娯楽で知識人層には馴染みが薄い行事であったことを確認したうえで、明治から大正への天皇の代替りを契機として初詣が上層へと波及していくという〈下→上〉の回路が開かれたことを論じた。とくに東京については、第三章をふまえて、大正9（1920）年に誕生した明治神宮が〈感情美〉の再生装置となり、知識人たちは「迷信」的行為を〈感情美〉のフィルターを通して好意的に解釈することによって、庶民たちとともに初詣を行うようになる。明治神宮初詣は、内部に差違をはらみながらも、神社に参拝するという大枠のプラクティスを共有する「国民」の行事となったのである。

第三部では、大正期以降、初詣がナショナリズムと接合し始めたからといって娯楽性を縮小させたわけではなく、むしろ都市化のなかで娯楽とナショナリズムが絡み合っていくことによって、多くの人々が〈上から〉の動員なしに自発的に楽しみながら参加する「国民」の行事として拡大していくこと、および、このような動向にもかかわらず初詣を一律にナショナリズムの文脈のみで美化する言説が流通していくことを明らかにした。

まず第五章では、伊勢神宮をはじめとする「聖地」（天皇陵および皇室ゆかりの神社）への参拝客が、国鉄・私鉄の競争／協同の相乗関係によって娯楽性をともないながらさかんになっていくこと、さらに、それにもかかわらず、言説上ではナショナリズムの文脈で捉え返されていくことを明らかにした。

第六章では、明治神宮と郊外の有名寺院（成田山・川崎大師）が都市化にともなう〈脱都市〉を求める行楽の需要と合致して初詣の賑わいが右肩上がりに増していき、現代の初詣の原型が確立する過程を検討した。さらに、このような〈社寺〉の初詣という実態にもかかわらず、〈寺〉を捨象して〈社〉のみに限定して初詣を皇室と結びつけて美化する言説が流通していくことを論じた。

以上をまとめれば、初詣の成立と展開の歴史は以下のようなだろう。明治期に〈鉄道＋郊外〉によって都市庶民の郊外行楽を兼ねた娯楽として成立した初詣は、明治から大正への天皇の代替りを経て知識人の参入が始まり（プラクティスが下から上へ波及）、ナショナリズムと接合していく。戦間期には、都市モダン文化と共通の基盤のうえで娯楽とナショナリズムが絡み合うなかでさらに拡大をみせ、現代の原型を確立していく。だが、娯楽性をますます高めていく初詣の実態とは裏腹に、言説上ではこれをナショナリズムの文脈で語る言説が発生し、社会に流通していった。つまり、下から上へと波及したプラクティスは、上で捉え返されて、そこから発生した言説が社会に還流していくという、〈下→上→下〉の回路によって、初詣は「国民」の行事へと変貌していったのである。

最後に結論として、本論で明らかにした近代日本の都市部における初詣の成立と展開の過程をふまえて、序論で提示した基本視角を軸に考察を行った。

（１）〈鉄道＋郊外〉がもたらした“自由”

近世以来の社寺参詣には方角や日取りに関する細かいルールがあったが、〈鉄道＋郊外〉によって成立した初詣は〈正月にどこかの社寺に参詣する〉という程度の中身しかない。つまり、〈鉄道＋郊外〉は、近世以来の社寺参詣にまわりついていた細かいルールから人々を“自由”にする機能をもったと言える。だが、この中身のなさゆえに、大正期以降、初詣は容易にナショナリズムと接合していくことになる。〈鉄道＋郊外〉によってもたらされた“自由”は、その延長上に、ナショナリズムとの親和性が待ち受けていた。〈〇〇からの自由〉が〈△△への従属〉へと転じていくというパラドクスである。

（２）〈下→上→下〉という回路による国民の一体化

初詣は、もともとはナショナリズムとは別の文脈で庶民の娯楽行事として生まれたものであったが、明治から大正への天皇の代替りを契機として知識人へも波及していく。特に東京では、明治神宮という、「国民」内部の様々な差違をのりこえてプラクティスを共有できる場が誕生したことが、初詣の「国民」化の過程において重要な転機となった。さらに、〈皇室＝明治神宮＝初詣〉を三段論法的に飛躍させて、国民が宮中の四方拝に倣って古くから行ってきたものとして初詣を語る〈皇室＝初詣〉型の言説が生み出される（〈上から〉のとらえ返し）。この言説は、様々なメディアを“伝言ゲーム”のように流通しながら、社会へと還流していった。

明治期から昭和戦前期にまで至る初詣の「国民」化の過程からは、以上のような〈下→（プラクティス）→上（とらえ返し）→（言説）→下〉の回路が見出せるのである。

（３）天皇に対する国民の〈感情美〉

二重橋前平癒祈願の際に浮上した〈感情美〉とは、表面上の違いこそあれ国民が皆天皇を思う共通の心情を有している（形は様々／心は一つ）という意味で“発見”されたものであり、この時点では神社との独占的な結びつきは全くなかった。ところが、その後の明治神宮創建論争のなかで〈感情美〉は独占的に神社と結びつけられたものへと変化していく。〈皇室に対して心は一つ〉であったはずの〈感情美〉は、〈皇室＝神社に対して心は一つ〉という中身に変質したのである。そして、実際に創建された明治神宮が〈感情美〉の記憶の再生装置として機能するようになり、従来 of 社寺参詣に対して知識人が有していた心理的障壁は緩和・解消され、階層間の隔たりをのりこえた「初詣」というプラクティスの共有が可能となった（ただし、神社に違和感を持ち続ける一部の人々を除いて）。

我々は以上のような天皇に対する国民の〈感情美〉がたどった道筋に注目することによって、明治期に庶民と隔絶した位相に生きていた知識人が庶民とともに群集に混じって神社に参拝するようになる変化、および、明治期には絶対化されていなかった〈皇室＝神社〉という結びつきが自明化していく変化を理解することが可能となるのである。

（４）娯楽とナショナリズム

天皇の代替りを契機としてナショナリズムと結びついた初詣が、現在にまで至る持続性を有することができたのは、この行事が娯楽とナショナリズムが混在する行事として展開していったからであった。この流れを強力に推し進めたのが鉄道を主とする交通・旅行業界であった。都市モダニズムを牽引した戦間期の大都市圏の鉄道の娯楽戦略は、ナショナリズムともきわめて親和的なものだったのである。

このような事実は、戦間期都市における娯楽を回路とした「国家神道」と国民の関わりという従来の「国家神道」研究に欠落していた視角を示すことにもなる。〈氏神＝地域社会〉という国民統合回路が必ずしも十分に機能できない都市部において「国家神道」の浸透を実質的に担ったのは、政府・神社界といった勢力よりもむしろ交通・旅行業界であった。該業界は娯楽とナショナリズムを織り交ぜた巧みな宣伝・集客戦略によって大勢の人々を「聖地」参拝へと誘い出した。しかも、その〈体験〉がたとえ娯楽を含むものであっても、〈体験〉者の集合体は、言説上では「国家神道」を支えるものとして機能していく。「国家神道」を、そのイデオロギーの中身そのものよりも、国民への浸透過程という点から考えるためには、本研究で試みたようなアプローチはきわめて重要なものとなるのではないだろうか。